

大分教育事務所訪問 65

大分市立川添小学校に学ぶ

学校経営から学ぶ

学校の教育目標「豊かな知性と創造性に富み、思いやりを持って互いに協力できる人間性とたくましい行動力をもつ子どもの育成」を達成するために、めざす子ども像「考えあう子ども」「わかりあう子ども」「ぞんぶんに動く子ども」として、3つの部会を中心に組織的に取り組んでいます。また、本校の地域性を生かし、地域との協力を得ながら、川を中心とした実践を計画的に行っています。

今後は、協議の中で確認した「自己主張ができる、討議ができる力（言語能力）」等、学校として育成を目指す（教科横断的な）資質・能力を明確にすることで、職員のベクトルが揃いやすくなり、3つの部会の協働的な取り組みやカリキュラム・マネジメントが推進されると思います。

※参考資料「小学校学習指導要領解説 総則編 P47 2教科等横断的な視点に立った資質・能力 ア 言語能力」

また、学校経営計画表の各取組指標は、どの「資質・能力（3本柱）」を育てるために行うのかを明確にすることで、教職員や保護者・地域の方との共通理解が推進されると思いました。このように、教職員や学校関係者の上位目標の理解がすすむと、方法は担当者に任せることができ、それぞれの当事者意識がより高まると思いました。

授業から学ぶ

参観したどの教室では、子ども達が学びに向かっていました。とりわけ、2年生道徳では子ども達のどのような意見も肯定的に受け入れることで、手を挙げて発言する子どもが増えていました。そして、次第に課題に迫るような意見も出るようになり、子ども達の思考から流れを創る授業展開が素晴らしいと思えました。また、3、4年の体育では、多くの子ども達に意見を言わせることで、教師が言いたいことを子どもに伝えさせていました。また、子ども達にも悪いところではなく良いところを発見させ、さらに、よくできている子どもに模範演技をさせることで、皆が思い切った演技ができるようになりました。まさに、手柄を子ども達に取らせる、子どもが主役の授業でした。（もっと見たかったです）

今後は、指導案にある「振り返り」には、子どもがどのような事を書くのか、どんな姿になったら良いのか等、教師が願う具体的なゴールの姿を「子どもを主語」とすることで、「ねらい」との連動や評価規準がより明確になります。そのような、日常的な実践を行うことで授業力がより向上すると思いました。



NO.292 2021年9月 川添小学校

考えあう

まずは自分の考えを根拠をもとに整理する。だから、後の学び合いが楽しくなる。



NO.294 2021年9月 川添小学校

ぞんぶんに動く

細かいところは上級生には及ばないけど、元気の良さでは負けないぞ！見る人に感動を与えるぞ！



NO.293 2021年9月 川添小学校

わかりあう

みんなが自分の良さを認めて、励ましてくれるから、思いっきりやることができる。そして、みんなも成長する。